

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立本庄小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

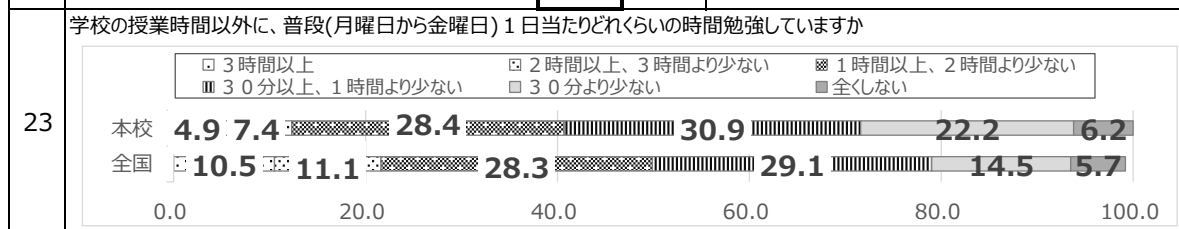
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	81.5	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	82.7	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	87.7	91.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	84.0	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	82.7	78.4



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎自ら課題に向き合い、分からないときに学び方を工夫して取り組む主体性が見られます。
- ◎学習した内容を振り返り、分かった点や課題を見直して次の学びに活かす意識が高く育っています。
- 友達と話し合う活動を通して考えを深めたり、お互いの意見を尊重して協力し合ったりする対話力を高めていく必要があります。
- 授業以外の学習時間を確保し、自分に合った学習習慣を定着させていく必要があります。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	80.3	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	79.0	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	80.2	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	84.0	92.5

《質問領域：向社会的性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	88.9	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	77.7	80.1

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

- ◎どの項目もおよそ8割の児童が肯定的な回答を示していることから、多くの児童が日々の生活の中で幸せを感じ、学校に行くのが楽しいと前向きに捉えて生活していることがうかがえます。
- ◎「人の役に立ちたい」「地域や社会をよくしたい」という、他者や社会に進んでかわり、貢献しようとする意識の土台をもっています。
- 全国平均に比べ「自分にはよいところがある」と言える児童が少なく、自己肯定感を高める支援が必要です。
- 将来の夢や目標を明確にもち、現在の学びや生活とのつながりを実感できるような働きかけが求められます。

調査結果を受けて

【学校では】

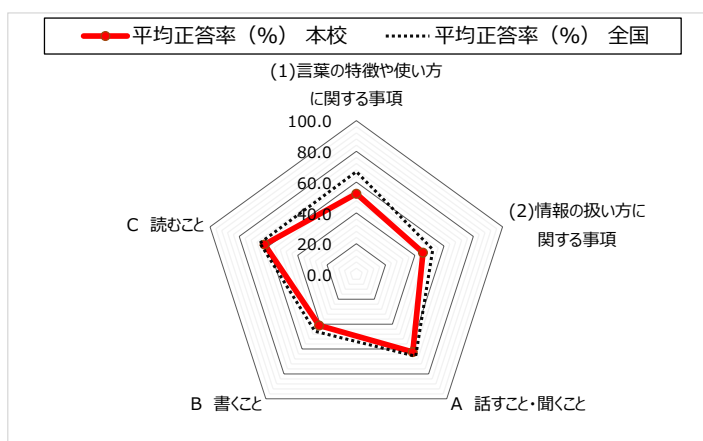
- 授業の中でペアやグループでの話し合い活動を意図的に取り入れ、互いの考えを尊重しながら安心して自分の意見を表現し、協働して納得解を見いだす授業づくりを進めます。
- 児童一人一人の良さや小さな挑戦、日々の頑張りを丁寧にみつめて日常的に認める声かけを徹底し、児童が自分に自信をもち、安心して学校生活を楽しめる自己肯定感の育成を図ります。

【ご家庭では】

- 「今日学校でどんな面白いことがあった？」「あなたはほしい？」など、お子さんの話にじっくり耳を傾け、自ら考えや気持ちを引き出す温かい対話を大切にしてください。
- テストの点数などの結果だけでなく、何かに挑戦したことや頑張った過程（プロセス）に目を向け、認め励ます「伴走の姿勢」での見守りと声かけをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	52.5	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	45.6	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	62.4	65.8
	B 書くこと	41.1	45.7
	C 読むこと	62.7	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	55.7	61.9
短答式	45.6	62.6
記述式	51.9	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 文章から必要な情報や書き手の意図を的確に読み解き、それらを基に自分の考えを論理的にまとめたり記述したりする「思考を深め表現する力」は、全国平均を上回り確実に身に付いています。
- 文脈の中で言葉がもつ本来の意味を正しく理解し、学年相応の漢字を正しく使いこなす力や、情報同士の関係性（主従関係や並列関係など）を構造的に捉えて活用する「基礎的な言語能力」に課題が見られます。言葉を単なる記号として覚えるのではなく、実際の文や文章の中で正しく機能させる力を育成する必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	81.0	76.4
2二	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる	51.9	48.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	16.5	45.2
3二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	39.2	55.6

調査結果を受けて

【学校では】

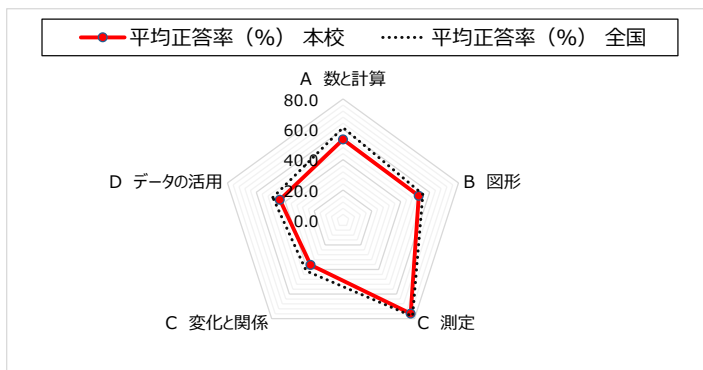
- 児童が単なる漢字の暗記にとどまらず、言語活動を通して「言葉を使いこなす楽しさ」を実感できるよう、日常的なアウトプットの場を設定し、自ら辞書を引いて意味を調べていくような主体的な活動を支えます。
- 文章や図表を読む際に、児童自らが言葉のつながりや情報の関係性に気付き、それらを整理していけるような問いかけを工夫することで、文章全体を構造的に捉えようとする探究的な学びを促します。

【ご家庭では】

- 家庭で漢字や言葉の学習に取り組む際は、正しく書けたかという結果だけでなく、「この漢字を使ってどんな文が作れるかな？」とお子さん自身が言葉の広がりを楽しめるような、声かけをお願いします。
- 日常の会話やニュースの中で、「今の言葉はどういう意味だろう？」「別の言い方をするとどうなるかな？」など、お子さん自身が言葉のニュアンスや使い方に興味をもち、自ら考える姿勢を温かく見守ってください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	53.3	61.1
B 図形	52.5	55.3
C 測定	75.9	78.1
C 変化と関係	36.3	41.1
D データの活用	43.7	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	49.6	56.0
短答式	55.5	59.7
記述式	43.5	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎立方体の体積の求め方といった図形の性質や公式に関する基礎的な理解、および小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで成り立っているという「算数的なきまりや概念の基本」は、正答率からもしっかりと定着していることがうかがえます。

●「単位分数（1の何分の1か）」という分数の根本的な概念を数直線と結び付けて数理的に捉える力や、整数と小数が混在する計算において位取りを意識して正確に処理する「概念の活用力および技能の習熟」には課題が見られます。計算の手順を暗記するだけでなく、「数の仕組み」を本質的に理解し、様々な場面で柔軟に活用できる力を高める必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	81.0	72.7
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	91.1	94.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (4)	単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	49.4	68.1
3 (2)	整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる	44.3	58.1

調査結果を受けて

【学校では】

- 児童が数直線や図を描いたり、具体物を動かしたりしながら試行錯誤し、分数や小数の「数の仕組み」を視覚的・論理的に捉え直していけるよう、じっくりと課題に向き合える時間と環境を大切にします。
- 計算の答えを出すことだけに留まらず、児童が「なぜこの式になるのだろう」というプロセスに関心をもち、自分の言葉や図を用いて友達と主体的に説明し合いながら、納得解を見いだしていけるような対話の場を充実させます。

【ご家庭では】

- 家庭学習では、正誤だけでなく「どうやって解いたの?」「面白い工夫はある?」と問いかけ、お子さん自身が自分の思考のプロセスを語れるような機会をつくってみてください。
- 間違えた問題に対してすぐに答えを教えるのではなく、「どうしてこうなったのかな?」とお子さんが数直線や図を描いて振り返るのを、焦らず一緒に見守りながら考える時間を大切にしてください。